

令和5・6・7年度豊橋市教育委員会研究委嘱

研究分野「学習指導」

令和5年度豊橋市立豊城中学校研究概要（一年次のまとめ）

1 研究主題

自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成
～世界（ひと・もの・こと）との関わり合いによる考えの再構築の繰り返しを通して～

2 主題設定の理由

急激に変化する時代の中で、社会の在り方そのものが、これまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わりつつある。「私たちはどう行動するべきか」という問いに、確信をもった答えを誰も見いだせない。これからの時代を生きる子どもたちは、予期せぬ事態に対しても、必要だと考えられる情報を、多くの情報の中から選択し、歩んでいく必要がある。

本校では、「自律と協調の精神を養い、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」～知性・品性・感性あふるる豊城中～という教育目標のもと、「自ら考え行動できる生徒」、「思いやりのある生徒」、「ねばり強い生徒」を旨とし、教育活動を行っている。生徒たちは仲間意識が高く、多様性を認め合える素地がある。一方で、自分の考えに自信がなく、多数意見に流されてしまうことも多い。他者のことを認めるよさを更に伸ばしながら、自律の力を高めていきたい。自らを振り返ることで自己理解を深め、今自分自身には何が必要で、何をすべきなのかを判断して行動できる力を育みたい。

社会情勢と生徒の実態を踏まえ、「自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成」を旨とする。そのために、自分の学びを振り返ることと、世界（ひと・もの・こと）と関わる協働的な学びを繰り返す。そうして自分になかった考えを知ったり、改めて自分の考えを見つめ直したりすることで、自分を客観視し、最適な学びを自己決定し、実行しようとすることができるだろう。

3 目指す生徒像

「自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒」

「最適な学び」とは、

- ・ 自らを客観視し、目標を達成するために必要なことを考えた学び

「自己決定できる生徒」とは

- ・ 最適な学びを考え、実行しようとすることができる生徒

▼教科としての目指す姿を設定する

例：理科として「自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒」とは、

問題を解決するために個人追究を行う中で、仲間や教師との対話の中で他者の考えを咀嚼し、自分の仮説や追究方法を見つめ直し、学びを更新していこうとする姿

4 研究の仮説

①生徒自身が成長を感じられる授業展開の中で、②自分の学びを振り返り理解することと、③世界（ひと・もの・こと）と関わる協働的な学びを繰り返せば、自らを客観視し、最適な学びを自己決定することができるだろう。

5 研究構想図



6 研究のてだて

(1) 生徒自身が成長を感じられる授業展開をするために ①

○生徒が単元を通して成長を実感できる授業づくり

・「であう」→「みつめる・かかわりあう」→「まとめる・ひろげる・活用する」ことができる学習を展開できる単元を構想する。

・授業内における生徒が成長を実感できる効果的な支援を講じる。(個別最適な学びのてだて)

※ 英語科、数学科の少人数指導を含む

○魅力ある教材づくり

・子どもが、問題意識をもったり、粘り強く授業に取り組んだりしたくなるような魅力ある教材づくりを行う。

(2) 自分の学びを振り返り理解するために ②

○生徒が自分自身を客観的に捉えるための振り返り

・生徒が「であう」→「みつめる・かかわりあう」→「まとめる・ひろげる・活用する」単元を通して、学びを客観的に振り返り、よさや足りなさに気づく振り返りを実施する。

○メタ認知力、非認知能力向上につながる振り返りや支援

(3) 他者に関わる協働的な学びをするために ③

○生徒が他者に関わり合うためのコミュニケーションスキル向上

・生徒が他者との対話スキルを高め、自己理解につなげるコミュニケーションスキルタイム(コミケ)を実施する。

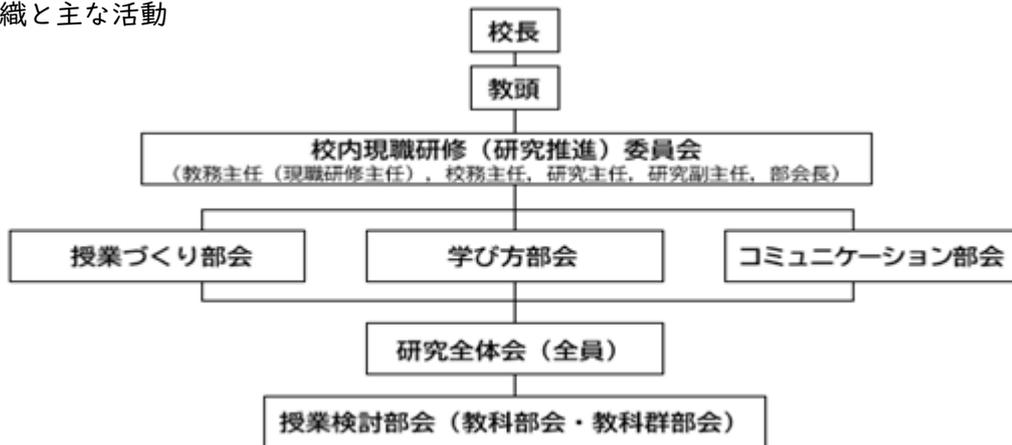
・コミュニケーションスキルタイムや授業の中で「伝えたい・わかってほしい」(他者意識)と、「聴きたい・わかってあげたい」(わかろうとする心)の向上を図る。

○他者に関わる協働的な授業展開

・単元構想の中に、他者に関わる協働的な学びを組み込む。

7 研究の組織と主な活動

(1) 研究組織



(2) 部会

部会		
授業づくり部会	生徒が単元を通して成長を実感できる授業・単元構想づくり、授業案形式作成、授業内でだての検討、教える授業から学ぶ授業への教師意識改革	リーフレット
学び方部会	振り返り、朱書きや対話のあり方	リーフレット
コミュニケーション部会	コミュニケーションタイム、授業での対話力向上	リーフレット

(3)教科群部会

教科群	1群	2群	3群	4群
◎群リーダー ○教科主任	国語 ◎○一柳 (3) 吉川 (2) 芝原 (1)	数学 夏目 (3) ◎○秋山 (2) 三浦 (1)	社会 ○小野田 (3) 鈴木 (3) 磯部 (1)	理科 ◎○清川 (3) 花井 (2)
	特別支援 ○加藤 (5組) 川後 (6組) 伊藤ゆ (7組)	英語 尾崎 (3) 森 (2) 野尻 (1) ○早川 (1)	保健体育 山本 (2) ◎○伊藤祐 (1)	音楽 ○河合直 (2)
	技術：芳賀、家庭：上林、美術：鯨			

※ 下線は 11.1 授業予定者、波線は 1 学期実践予定者

8 R6 年間計画

- 1 学期 研究方針、代表者授業、全体研究授業
- 2 学期 学校訪問、ブロック現研（中間発表）、研究先進校視察
7/19 非認知能力学習会
- 3 学期 総論・てだて検証、次年度の計画、研究先進校視察

4月 1日	月	研究推進 (研究の基本案、年間計画、研究組織、役割、研究授業、助言者・司会者) (現研Ⅰ：アレルギー対応)
-------	---	---

4月 2日	火	研究会全体会①（現研2） （研究の基本案、年間計画、研究組織、役割、研究授業、助言者・司会者）
4月 3日	水	3部会（現研3）（3部会方針、計画、てだてと検証方法）
4月 8日	月	3部会予備（3部会方針、計画、てだてと検証方法） 教科部会（現研4）→教科群部会（教科で目ざす姿検討、各教科で授業内てだて検討（自己理解・ヒト・モノ・コト）、検証方法検討）
4月 9日	火	研究会全体会②（現研5） ・3部会提案（方針、計画、検証方法） ・教科部会提案（教科で目ざす姿、てだてと検証方法）
4月10日	水	
4月18日	木	研究推進 3部会・群部会（現研6）（教科で目ざす姿検討、授業内てだて検討（自己理解・ヒト・モノ・コト）検証方法検討 ※研全②をうけて）
4月25日	木	（現研7：救命救急）
4月 下旬		担当指導主事との打ち合わせ（坂田指導主事、田中指導主事）
5月 2日	木	研究推進（ブロック現研・日程検討、研究構想図提案） ①代表者授業案（花井）（第1案締め切り） 3部会（現研8）（研全を受けて②、修正案検討）
5月 中旬		第1回研究委嘱校連絡会
5月 9日	木	研究会全体会③ （ブロック現研・日程提案、研究構想図提案） ①代表者授業案（花井）※検討 ②全体授業研究 授業案提出（野尻）※群部会検討
		研究推進 研全③を受けて修正案、研究要項
5月下旬～6月上旬		代表者授業研究（花井）
5月30日	木	研究会全体会④ ※必要に応じて、研全後3部会 （ブロック現研・日程、研究構想図、研究要項提案）
6月 6日	木	3部会（協議会のもちかた、てだて） 教科部会（単元構想相談）
6月27日	木	研究会全体会⑤、研全後3部会 ※必要に応じて教科部会 ・3部会現状報告、提案
6月下旬～7月上旬		②全体授業研究会（野尻）
7月 上旬		R6第1回研究に関わる生徒の実態調査 R6第1回研究に関わる教師を対象とした授業の実態調査
7月 19日	金	現研：非認知能力学習会（仮） 岡山大学 教育推進機構 准教授 中山 芳一氏 於：豊橋公会堂（仮） 14：00～

7月 25日	木	群部会 ブロック現研（学校訪問）単元構想検討
		研究推進 （ブロック現研の運営、発表用原稿、リーフレットについて）
8月 1日	木	研究全体会⑥、 ※必要に応じて3部会 （ブロック現研の運営、発表用原稿、リーフレットについて） 教科部会 ブロック現研（学校訪問）本時案検討
8月19日（月）？ 20日（火）？ の2日間開催？		ブロック現研の助言者・司会者への研究概要説明会 授業者との顔合わせ会（学校全体で） 単元構想相談
		研究推進 （ブロック現研の運営、発表用原稿、リーフレットについて）
8月22日	木	ブロック現研授業案【第1案しめきり】
8月22日	木	研究全体会⑦・3部会・教科部会・研究推進委員会 （ブロック現研授業案検討） （ブロック現研の運営、発表用原稿、リーフレットについて）
8月29日	木	ブロック現研授業案【第2案しめきり】
8月29日	木	研究全体会⑧・3部会・群部会・研究推進委員会 （ブロック現研授業案検討）
9月 5日	木	ブロック現研授業案【完成しめきり】 学校訪問授業案【第1案しめきり】
9月 5日	木	研究全体会⑨・3部会・教科部会・研究推進委員会 （学校訪問授業案検討）
9月19日	木	学校訪問授業案【第2案しめきり】
9月19日	木	研究全体会⑩・3部会・各教科部会・研究推進委員会 （学校訪問授業案検討）
9月26日	木	学校訪問授業案【第3案しめきり】
9月26日	木	研究全体会⑪・3部会・各教科部会・研究推進委員会 （学校訪問授業案検討）
9月上旬～下旬		ブロック現研の授業の打ち合わせ（授業者各自で） 助言者・司会者の先生
10月下旬～11月上旬		研究校視察（新川小、鷹丘小、北部中）
10月 3日	木	研究全体会⑫・3部会・教科部会・研究推進委員会 （ブロック現研の運営、発表用原稿、リーフレットについて最終提案）
10月24日	木	研究全体会⑬・3部会・教科部会・研究推進委員会 （ブロック現研における最終確認）
10月28日	月	学校訪問
11月 1日	金	12ブロック合同現研 兼 中間発表会 兼 授業研究会 （全クラス ※1学期実践者クラス（野尻）を除く）
		研究推進 （ブロック現研反省、研究構想の見直し及び修正）
11月 7日	木	研究全体会⑭・3部会・研究推進委員会

		(ブロック現研反省、研究構想の見直し及び修正)
11月14日	木	3部会
11月21日	木	研究全体会⑮・3部会・研究推進委員会 (研究構想の見直し及び修正)
12月19日	木	授業研究の検証(ブロック現研授業者)【第1案しめきり】
12月19日	木	研究全体会⑯・3部会・研究推進委員会 (授業研究の検証)
12月23日	月	3部会
1月7日	火	授業研究の検証(ブロック現研授業者)【第2案しめきり】
1月7日	火	教科部会、群部会(授業研究の検証) 3部会(本年度の研究の成果について)
1月16日	木	研究全体会⑰・3部会・研究推進委員会 (授業研究の検証、本年度の研究の成果について)
1月23日	木	3部会(本年度の研究の成果について)
2月6日	木	3部会(本年度の研究の成果について、来年度に向けて)
2月13日	木	研究全体会⑱・3部会・研究推進委員会 (本年度の研究の成果について)
2月27日	木	研究全体会⑲・3部会・研究推進委員会 (本年度の研究の成果について、来年度に向けて)
		研究推進(来年度に向けて)
3月24日	月	研究全体会⑳・3部会・研究推進委員会 (本年度の研究の成果について、来年度に向けて)

8 令和6年度・7年度のおおまかな流れについて

(1) 令和6年度

- ・2学期(11月1日)に全クラスがブロック現研で中間発表を実施(1学期に全体研を行った先生は除く)
- ・中間発表会の当日の流れ

13:10 13:20 13:40 13:55 14:10 14:20 15:10 15:20 16:30

受付	全体会 (体育館)	移動	コミュニケーション スキルタイム 公開(各教室)	移動	公開授業 (各教室)	生徒 下校	協議会 (各教室)
----	--------------	----	--------------------------------	----	---------------	----------	--------------

(2) 令和7年度

- ・1学期(5月中旬頃)に研究概要説明会を実施
- ・1学期(5月下旬~6月中旬頃)に本発表の授業者全員(各クラス1名、基本は担任)が研究授業を実施、要請訪問授業者(全体研)は1学期に実施する
- ・夏休み中(8月下旬)に研究発表打ち合わせ会を実施
- ・2学期(10月~11月頃)の本発表で授業者全員(各クラス1名、基本は担任)が授業を実施
- ・研究発表会の当日の流れ

12:40 13:10 13:40 13:55 14:10 14:20 15:10 15:20 16:30

受付	全体会 (体育館)	移動	コミュニケーション スキルタイム 公開(各教室)	移動	公開授業 (各教室)	生徒 下校	協議会 (各教室)
----	--------------	----	--------------------------------	----	---------------	----------	--------------

【授業案と実践の振り返り】

第2学年3組 社会科授業案

1 単元 赤字の豊橋には魅力がない?! ～ふるさと納税に関する学びを通して～

2 生徒の実態

- ・昨年度のウクライナ侵攻をテーマとしたEUの学習では、意欲的に個人追究をして自分の意見を構築し、堂々と関わりあう姿がみられた。
- ・今年度に入り、学級の前で発言する頻度が少なくなったが、関わりあいの授業の振り返りなどには友達の見聞きを受け止めて学んでいることがわかる記述が見られる。

3 生徒への願い

- ・豊橋への関心が薄いためその魅力や価値に気づいていない生徒たちが、個人追究と関わりあいを通じて豊橋の魅力に気づき、郷土への愛着を高めることを期待する。

4 単元目標

- ・ふるさと納税の返礼品や寄付額の資料をもとに、豊橋市の地域的な特色を理解している。(知・技)
- ・収集した情報から他自治体と豊橋を比較し、豊橋市ならではの魅力を提案することができる。(思・判・表)
- ・個で立てた学習計画をもとに、豊橋市の魅力を探するために調査テーマを追究している。(主体性)

5 教材のよさ

- ・ふるさと納税の受入額は右肩上がりに増加しており、今後さらに社会の中での影響力が高まると想定される。
- ・ふるさと納税を利用しない理由の37%が「仕組みや利用方法がわからないから」であり、今後社会に出ていく生徒にとってこの学びは有益な知識となる。
- ・豊橋市はふるさと納税の受入額より流出額が多いため、ふるさと納税の負の面である住民税の流出について切実感をもって考えることができる。
- ・豊橋市を黒字にするための方法を考えることで、税制の仕組みだけでなく、豊橋のよさや魅力について改めて考え、郷土に対する愛着をもつきっかけとすることができる。



2022年度のふるさと納税による
寄付受入額と市町村税流出額

	受入額 (円)	流出額 (円)
(1) 名古屋市	63億2316万	159億2581万
(2) 幸田町	33億2521万	1億3558万
(3) 碧南市	32億 683万	2億1667万
(4) 西尾市	21億3552万	4億6416万
(5) 大府市	15億8545万	4億2800万
(6) 蒲郡市	13億9254万	2億 730万
(19) 豊川市	1億5723万	4億5570万
(22) 田原市	1億1251万	9967万
(24) 豊橋市	1億 152万	9億9695万
(41) 新城市	2686万	5802万
(45) 豊根村	1343万	44万
(49) 設楽町	890万	270万
(52) 東栄町	520万	166万

※丸かっこ内は寄付受入額の県内市町村順位

7 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・商品型の返礼品と体験型の返礼品のそれぞれのよさを理解し、それを豊橋ではどのように生かせるか考え表現することができる。(思・判・表)

(2) 展 開

時間	学習の流れ ●支援 ★評価						
20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 商品型返礼品と体験型返礼品それぞれのよさは何だろう </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">寄付する人にとって</p> <p style="text-align: center;">〈商品型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに届く、手間がかからない ・種類がたくさんある ・ふるさと納税をする人の9割が「食品、または飲料」を返礼品としている自治体に寄付しているから、需要がある ・冷凍だと長い間楽しめる </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〈体験型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な体験はお金を払ってでもしたい ・子どもにとって貴重な体験をさせる「旅育」という考え方が広がっている ・地域によっては普通ではできない特別な体験ができる ・思い出が残る </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">自治体や業者にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品が選ばれなくても、宣伝になる ・一度味わってもらって美味しければ、その後も続けて購入してもらえらる可能性がある ・その地域の特産品を他市の人に知らってもらうきっかけになる </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型を返礼品にするだけで、その地域でこんな体験ができるんだというPRになる ・すでにある観光資源を活用できる ・体験に来る人の宿泊やお土産など、寄付額以外の経済効果が期待できる </td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 商品型も体験型もそれぞれのよさがあるんだな 豊橋の強みを生かせるのはどちらだろう </p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 豊橋はどちらに力をいれるべきなのか </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〈商品型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラックサンダーは全国的に有名なので、コラボすれば知名度は高まる ・ヤマサにはメッセージかまぼこがあるから、特別感のある返礼品になる ・市の施設に係る魅力あるキャラクターを新たに生み出して、コラボ商品をつくれれば、充実した市の施設についても知らてもらえる </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〈体験型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の祇園祭では40万円、徳島の阿波踊りでは20万円の観覧席が売れている。他自治体の人からしたら豊橋の鬼祭りや祇園祭にもその価値があると思う ・となりのクラスノTくんはエクストラとして出ていたよ。映画やドラマの撮影地として有名だから、エクストラ体験とかどうかな </td> </tr> </table>	<p style="text-align: center;">寄付する人にとって</p> <p style="text-align: center;">〈商品型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに届く、手間がかからない ・種類がたくさんある ・ふるさと納税をする人の9割が「食品、または飲料」を返礼品としている自治体に寄付しているから、需要がある ・冷凍だと長い間楽しめる 	<p style="text-align: center;">〈体験型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な体験はお金を払ってでもしたい ・子どもにとって貴重な体験をさせる「旅育」という考え方が広がっている ・地域によっては普通ではできない特別な体験ができる ・思い出が残る 	<p style="text-align: center;">自治体や業者にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品が選ばれなくても、宣伝になる ・一度味わってもらって美味しければ、その後も続けて購入してもらえらる可能性がある ・その地域の特産品を他市の人に知らってもらうきっかけになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型を返礼品にするだけで、その地域でこんな体験ができるんだというPRになる ・すでにある観光資源を活用できる ・体験に来る人の宿泊やお土産など、寄付額以外の経済効果が期待できる 	<p style="text-align: center;">〈商品型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラックサンダーは全国的に有名なので、コラボすれば知名度は高まる ・ヤマサにはメッセージかまぼこがあるから、特別感のある返礼品になる ・市の施設に係る魅力あるキャラクターを新たに生み出して、コラボ商品をつくれれば、充実した市の施設についても知らてもらえる 	<p style="text-align: center;">〈体験型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の祇園祭では40万円、徳島の阿波踊りでは20万円の観覧席が売れている。他自治体の人からしたら豊橋の鬼祭りや祇園祭にもその価値があると思う ・となりのクラスノTくんはエクストラとして出ていたよ。映画やドラマの撮影地として有名だから、エクストラ体験とかどうかな
<p style="text-align: center;">寄付する人にとって</p> <p style="text-align: center;">〈商品型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに届く、手間がかからない ・種類がたくさんある ・ふるさと納税をする人の9割が「食品、または飲料」を返礼品としている自治体に寄付しているから、需要がある ・冷凍だと長い間楽しめる 	<p style="text-align: center;">〈体験型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な体験はお金を払ってでもしたい ・子どもにとって貴重な体験をさせる「旅育」という考え方が広がっている ・地域によっては普通ではできない特別な体験ができる ・思い出が残る 						
<p style="text-align: center;">自治体や業者にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品が選ばれなくても、宣伝になる ・一度味わってもらって美味しければ、その後も続けて購入してもらえらる可能性がある ・その地域の特産品を他市の人に知らってもらうきっかけになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型を返礼品にするだけで、その地域でこんな体験ができるんだというPRになる ・すでにある観光資源を活用できる ・体験に来る人の宿泊やお土産など、寄付額以外の経済効果が期待できる 						
<p style="text-align: center;">〈商品型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラックサンダーは全国的に有名なので、コラボすれば知名度は高まる ・ヤマサにはメッセージかまぼこがあるから、特別感のある返礼品になる ・市の施設に係る魅力あるキャラクターを新たに生み出して、コラボ商品をつくれれば、充実した市の施設についても知らてもらえる 	<p style="text-align: center;">〈体験型〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の祇園祭では40万円、徳島の阿波踊りでは20万円の観覧席が売れている。他自治体の人からしたら豊橋の鬼祭りや祇園祭にもその価値があると思う ・となりのクラスノTくんはエクストラとして出ていたよ。映画やドラマの撮影地として有名だから、エクストラ体験とかどうかな 						
42	<p style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 商品型も体験型も豊橋市の強みを生かすチャンスがありそうだ 自分なりの赤字解消策を考えて、今野さん、澤田さんに提案してみたい </p> <p> ★豊橋の何のコンテンツが返礼品として価値をもつか考え、具体的な例を挙げて自分の言葉で表現することができる。(発言・ふり返り) </p>						

【実践のまとめ】

◇社会科 単元名 赤字の豊橋には魅力がない?!～ふるさと納税に関する学びを通して～

教師のてだて・生徒の姿	
であう	単元の導入で、教師が夏休みに石川県に訪れた際の写真を紹介した。長期休業明けの生徒たちは自分の夏休みの生活と重ね合わせ、興味をもって写真を見ていた。その中で、ふるさと納税の自動販売機を紹介したところ、「返礼品って何?」、「何の自販機?」とテーマに対する関心をもった。そこで、豊橋市の財政課・豊橋観光コンベンション協会からゲストティーチャーを招きふるさと納税講座を行うことで、寄付と返礼品の仕組みや各自自治体の寄付受入実績などの基本的な知識を理解した。講義のなかで、豊橋市のふるさと納税に関する赤字が7億円であることを知った生徒は、「豊橋市の7億円の赤字はこのままでいいのか」、「私たちでPRすることで赤字を解消することができないか」という問題意識をもち、追究を始めた。
かかわりあう	追究では、タブレットを使い調べ学習を行った。ちくわやうなぎなどの豊橋の名産として有名な商品以外にも、あいち鴨を唯一扱っている農場があったり、胡蝶蘭の出荷が全国1位であったりするなど、豊橋市には自分たちが知らない魅力がたくさんあることを知った。水陸両用車(ファイヤーートル)や、日本最長のはしご車(レッドジラフ)など、全国的に珍しい設備を活用し、体験型の返礼品というものがあることも理解した。その後、豊橋市の返礼品と他自治体の返礼品を比較する話し合いでは、いくらやホタテなどの海産物、有名なブランド牛などは豊橋市にはないものの、それ以外の豊橋市ならではのよさを再認識することができた。その後、具体的に豊橋市の返礼品としてどんなモノ・コトが提案できるかを個人追究した。ブラックサンダーや豊橋筆、ちくわなど商品型の返礼品を売り出す方法や写真の見せ方にこだわって追究する生徒や、祇園祭や鬼祭り、ドラマのエキストラや市電などを活用する体験型の返礼品がよいのではないかと考える生徒など、それぞれが自分の考えをもって話し合った。振り返りには「今のふるさと納税の実績から考えて、豊橋市の魅力ある商品を返礼品とするべきだ」、「豊橋市でしかできない体験をしてもらうことで、豊橋市のことを好きになってもらいたい」と記述するなど、具体的に返礼品としてどのようなモノ・コトがよいのかを深く考えることができた。
まとめ・ひろげる	豊橋市の赤字解消に向けて具体的にアイデアを考えた生徒に対し、実際に市の担当者にプレゼンする機会を設けた。アイデアを具現化する方法を客観的に考えたり、効率よく発表資料を制作したりするために、グループでの活動を推奨した。それぞれのグループでは、一人一人がこれまで追究してきたことをもとに考えを深化させ、思いのこもった発表資料を制作した。あるグループでは「モノ×コト 豊橋で思い出づくり」と題して、家族向けに旅行できる返礼品を提案した。その他にも「八雲団子活用計画」、「ポケふた(ポケモンのマンホール)の活用」など、商品型・体験型という枠組みにとらわれず豊橋市のよさを他自治体にしてもらいたいという思いのこもった発表が続いた。プレゼンを受け、市の担当者からは、「これだけ中学生の皆さんが豊橋市のことを真剣に考えてくれていることをとても嬉しく感じる」、「皆さんの学びと活動に私自身も刺激を受けました」など、学びの成果を客観的に評価してもらった。生徒の振り返りには、「豊橋市を愛する気持ちが大切だと思った」という記述がみられるなど、学びが形になった喜びとともに、郷土に対する愛着が高まっている様子が感じられた。

【成果と課題】 ○…成果、▲…課題

- 市の担当者から説明を受け、最終的に市の担当者に提案をするという、単元を通じた問題意識が生徒の中に発生していたため、単元を通して意欲的に学ぶことができた。
- 個人追究と協働学習(話し合い・グループでのプレゼン)を取り入れることで、必要に応じてグループをつくることができ、個別最適な学びの機会を提供することができた。
- 単元のまとめとして市職員や地域の方にプレゼンをすることで、自分たちの学びが社会とつながっていることを実感することができた。
- 豊橋市のことを調べたり、豊橋市の魅力をPRしたりする方法を考えることで、豊橋市に対する愛着を高めることができた。
- ▲一人一人が自分の考えをしっかりともっていたが、話し合いでは発言せずに終わってしまった生徒がいた。より多くの生徒が自分の考えを聞かせることができるようにしたい。
- ▲提案したあとに実際に返礼品が変化するなど、学びの成果をより実感することができたら、さらにこれからの問題解決的な学習に対する向き合い方を高めることができただろう。

第1学年1組 数学科授業案（目的別選択制 発展）

1 単元 データ王は誰だ!? マイカーチキンレース調査 ～600mmの崖～

2 生徒の実態

- ・小6の資料の整理の単元では、柱状グラフ（ヒストグラム）、散らばりのようす、平均値など、ある程度の数値やグラフの読み取り方は学習済みで、データの利用方法を少し理解している。
- ・合唱コンクールでは、パートリーダーを中心に楽譜を読みこむ特訓、話し合いで歌い方の修正、昼の自主練習や帰りの全校練習を期間中休むことなく続けたことなど、貪欲に勝ちたい気持ちを前面に出して音楽を学ぶ姿が見られた。

3 生徒への願い

- ・各々が自分に合った個人追究をする中で、データを取る必要性があることを知り、自らの考えを友達に伝えるときに、データをつかって説得力のある説明をすることを期待する。

4 単元目標

- ・マイカーチキンレース調査のデータを数値化して、表やグラフに整理し、データの読み取り方を理解することができる。（知・技）
- ・マイカーチキンレース調査のデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断したり、説明したりすることができる。（思・判・表）
- ・マイカーチキンレース調査で観察やデータ収集を粘り強く行い、振り返って検討したり、生活や学習にいかしたりしようとする。（態度）

5 教材のよさ

- ・データをつかって説明することによって、相手により伝わりやすい話ができるようになる。
- ・消しピン遊びを教材化することで、生徒たちが楽しみながら教材に触れ合い、友達と協力しているりと試行錯誤しデータ収集ができる。
- ・各グループの提案を聞いて、判断する活動を通して、データを使うことで説明力が増すことを感じられる。



ボールペンでマグネットを机の端から飛ばして、反対の机の端ギリギリ0mmを目指すゲーム



6 個別最適化を図る手だて

- ・振り返りシートで、授業時間ごとに自分が何をしたいか、すべきかを考えて追究内容を自己決定する。
- ・マイカーチキンレース調査で、自分が調査したい内容を自己決定し、授業終わりに追究方法やその成果について見直して調整する。
- ・自分と似た追究内容の仲間個人またはグループを組み、よりよいデータを集められるようにする。

7 単元構想図（13時間完了：本時11/13）※教師の手だて 自己理解☐ ヒト👤モノ📄コト🗨️

段階
であう
みつめる
かかわりあう
まとめる
ひろげる

マイカーチキンレース対決をしてみよう①

・マグネットをボールペンで飛ばす ・何回も机から落ちてしま
シンプルな遊びなんだな う…どうしよう
いろいろと試して、机ギリギリに止まる方法を考えて
みたい

マイカーチキンレースでいろいろとチャレンジしよう②～⑥

・私は高さに注目して試してみたい ・データのまとめ方は、平均値、中
・僕は縦の長さにこだわって調べた 央値などの数値、度数分布表の
い 表、ヒストグラムというグラフの
表し方があるのがわかったよ

自分たちの調べたことはわかった。他のグループはど
んな情報がわかったのだろうか

調べたことを共有しよう⑦

・マグネット8枚の高さが、平均値 ・横の長さを変化させた結果をヒス
20mmでギリギリになったよ トグラムにしてみたよ
・マグネット10枚の高さだと、平 ・縦の長さを変化させて、中央値を
均値50mmになったよ 調べてみたよ

データをとったほうが、説明力が増すね。みんなが集めてま
とめたデータが本当に一番良いマイカーなんだろうか

オリジナルのマイカーを作ってクラスで1位を目指そう⑧、⑨

・やっぱり自分のマイカーのすごさ ・前に調べたものから、縦の長さ
を知らせるには、データは残さな 25mm、横の長さ10mm 高さを8mm
いとわからないな にしたらよりよいデータが出たよ
オリジナルマイカーが完成したな。クラスみんなはどんなマ
イカーを作ったんだろうか

クラス代表のマイカーをみんなで選ぼう⑩～⑫（本時）

・Aグループは平均値から、机から落 ・Bチームは落ちないような安定
ちてもいいという考えで、ギリギリ したマイカーにしたことが、ヒ
のマイカーを作ったのがわかった ストグラムからわかった

クラスみんなで作戦を立てて、目的に合うクラス代表のマイカー
選びができたと思う。説明のときに、数値やグラフがあったか
ら、話す内容がわかりやすかった。大会がどうなるか楽しみだ

クラス対抗マイカーチキンレース大会をやってみよう⑬

・1組ギリギリを攻めるスタイル 2組は私たちのクラスと安定の
が結果としてどうなるかな 結果を重視したんだ、どんな結
果になるのか楽しみだな

データ通りの結果が出て勝つことができよかった。これから
は何かを調べようとするときにはデータを使って発表したり、
話してみたりしようと思った

勝負に勝つには、細かなデータをとって調べるといいことを
知った。友達に対して、説得力のある話し方がわかった。説
得力のある話をしたいときには数値や表、グラフを使えるよ
うになっていきたい。

※生徒がテーマに関心を抱きやす
いように、マイカーチキンレ
ースの見本を紹介する📄

※いろいろと試行錯誤したいとい
う気持ちを高めるために、大会を開
催することを伝える🗨️

※大会に沿った正確なデータを取り
ができるようにするために、ルール
表を作成し、掲示していつでも確認
できるようにする📄

※手際よくデータまとめができるよ
うにするために、事前にデータ入力
用のエクセルシートを用意する 📄

※説得力のある話し方に気づける
ようにするために、友達の発表を聞
いたり、説明したりする機会を設け
る👤📄

※平均値、最大値など、データの
数値に着目して振り返りが書けてい
る生徒を紹介し、よりよい振り返
りの書き方を理解する☐

※データを手際よく集計できる
ようにタブレット端末と集計用
のエクセルシートを使用する
👤📄

※クラス全員のマイカー代表を
選び出す基準を明確にするため
に、作戦会議の時間の場を設定す
る👤📄

※自分たちが考えた作戦がどう
であったかを検証するために、ク
ラス対抗の大会を開いて確認す
る👤🗨️

【実践のまとめ】

◇数学科 単元名 データ王は誰だ!? マイカーチキンレース調査 ～600mmの崖

教師のてだて・生徒の姿	
であう	<p>単元の導入で、教師は、マイカーチキンレースを学級対抗で開催することを生徒に伝えた。レースの方法と自分たちでオリジナルマイカーを作って勝負することを知ると、生徒は「消しピン遊びに似ている」、「楽しそう、やってみたい」と声を上げ、活動への関心をもった。大会にはクラス代表のマイカーが選出されることを知り、仲間を納得させられるマイカーをつくるためには、データに基づいた説明が必要であるという思いを高めた。そして、生徒は、データを活用し、どうすれば最高のマイカーを作れるだろうという問題意識をもち、追究を始めた。</p>
かかわりあう	<p>追究では、自作のマイカーを使い、進んだ距離のデータを収集する活動を行った。データ分析は、教師自作の Excel ファイルを用いた。1回目はデータの取り方とそのデータを活用して説明する方法を学ぶために、教師が意図的にグループを決めて実践した。生徒は、グループごとに興味があるデータをひとつだけ変化させ、進む距離を調べた。初めて使う Excel 機能の便利さに驚き、仲間と協力してデータを集めた。データを見やすく一覧にし、今まで学習した情報（最大値、平均値、ヒストグラムなど）を比較した。説得力のある説明の仕方を仲間と相談しながら考えをまとめた。2回目以降は、個人でオリジナルマイカーをつくり、データ収集を行った。手際よくデータを取ったり、自分のいろいろなデータを見比べたりし、説得力のあるデータを見いだした。かかわり合いの場では、オリジナルマイカーを示しながら、データの確からしさを仲間伝え合った。</p> <div style="text-align: right;">  <p>仲間とデータをもとに議論する生徒</p> </div>
まとめるひろげ	<p>まとめる段階では、クラス代表のマイカーを決める話し合いを行った。生徒は、自分のデータと仲間のデータと比較し、どのマイカーがクラス代表として相応しいかを議論した。データに基づき、相対度数が小さいものがよいと生徒が発言した。一方で、最頻値がもっとも適切なものがよいと述べた生徒もいた。自分たちがまとめたデータをもとに、相対度数や、ヒストグラムなどのデータのそれぞれのよさを比較し、根拠をもってクラス代表のマイカーを選んだ。</p> <p>ひろげる段階では、クラス対抗の大会を開催した。各クラスで、より確からしいデータを根拠に選ばれたマイカーを走らせた。カーレースの結果に、データの確からしさを裏付けた生徒もいた。</p> <p>生徒は、単元のまとめで「数値があると説得力のある説明ができることがわかった」、「AとBを比べるときはデータを使うことが大事だとわかった」と振り返り、データをまとめる必要性を実感していた。</p> <div style="text-align: right;">  <p>クラス代表のマイカーで結果を競う</p> </div>

【成果と課題】 ○…成果、▲…課題

- 身近な遊びをもとにした教具を用いたことで、単元を通して意欲を継続させ取り組むことができた。
- データを集める活動や説明する活動など、かかわり合いの場を取り入れたことで、自然と仲間と相談したり、協力したりする生徒が増えた。
- Excel ファイルを活用することで、効率よくデータ収集ができ、追究学習の時間を多く確保できた。
- ▲Excel ファイルや生徒が集めたデータの一覧は教師が作成した。データ処理やデータを比較する一覧なども生徒が自作できるとよい。
- ▲データにもとづいて代表を出して大会を開催したが、データ以外の要因（摩擦力や力加減）も関係したため、データに関係する以外の部分をそろえられる教材を考える必要がある。

(2) 学び方部会

学び方部会では、メタ認知能力、非認知能力を高めるため、学習ログや視点を与えた振り返りの実践を行った。

① 学習ログ

長期休みやテスト週間に、必要な学習を見える化するため、学習ログを作成し、実施した。

【成果と課題】○…成果、▲…課題

○すべきことが見える化され、意欲的に取り組む生徒もいた。

○テスト前には、「学習ログはまだですか」という生徒もいた。何を勉強すべきかの見える化が、生徒の必要な学びの把握につながった。

▲学習ログは全員に対して配付し回収した。学習低位の生徒には、学習ログがあれば、学習把握の一助となるが、学習ログがなくても、自分自身の必要な学びが把握できる生徒にとっては、計画を立てることがひと手間となってしまった。それぞれにあった支援を検討していく必要がある。

▲テスト週間や長期休暇のみの実施にとどまった。日々の家庭学習にもつながるよう再考していきたい。

テスト週間学習ログ

目標 (具体的に)		全教科 もっとずつやる。		組 番 名 前																					
Level 1 【まずはワーク類に取り組みよう】																									
日付	教科	種類	範囲	ページ数 (終わったページ数を○で囲もう)																					
2/19 (月)	社会	歴史ワーク	P24~49	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
		地理ワーク	P48~80	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	
	数学	数友	P86~107	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107
		国語の学習	P44	44	45	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	
2/20 (火)	英語	ワーク	P94~129	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	
		理科の学習	P64~93	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	
	理科	ワーク	P101~105	101	102	103	104	105																	
		ワーク	P108~117	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117												
Level 2 【ワーク以外の勉強に取り組みならこちらに記録していこう】																									
日付	2/9(金)	2/10(土)	2/11(日)	2/12(月)	2/13(火)	2/14(水)	2/15(木)	2/16(金)	2/17(土)	2/18(日)	2/19(月)														
朝	3時~5時 朝の英語 朝の算数 地理ワーク p72	6時~7時 英語 (ワーク)																							
夜																									
科目チェック欄	英語	数学	理科	国語	英語	数学	理科	国語	英語	数学	理科														
その他	2年生になる前に学習面ではがんばりたいこと 毎日でも勉強を続けること																								

夏休み学習ログ

目標 (がんばりたいこと、克服したいこと、完めたいこと等)		組 番 名 前																				
Step 1 【提出物を計画的にすませよう】																						
教科	範囲	ページ数 (終わったページ数のマスをつぶしていこう)																				
サマワワーク	英語 P0~27	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	社会 P28~53	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
	数学 P54~83	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74
	理科 P84~105	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104
	国語 P106~127	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126
理科スケッチ	実施日	月 日 ()																				
Step 2 【夏休み明けの成果発表会に向けて選択課題に取り組みよう】																						
右から一つ以上選択	国語	社会	数学	理科	英語	家庭科	体育	音楽	美術	技術												
	読書感想文 作文			調べ学習 or 自由研究				リコーダー 合唱コンクール	ポスター	ものづくり												
教科	取り組んだこと										工夫したこと【2学期に発表します!!!】											
	発表方法【スピーチ・動画・プレゼンテーション・その他()】																					

②振り返りシートの活用

4時間目	3時間目	2時間目	1時間目	評価
9/20(水)	9/19(火)	9/18(月)	9/17(日)	評価
I	△	△	○	◎◎◎
◎	◎	◎	◎	◎◎◎
<p>【国語科3年単元：俳句の可能性・俳句を味わう】</p> <p>I 本時の目標に対する達成度を自己評価する。</p> <p>II 本時の授業で自分ができるようになったことを記入する。</p> <p>III 学びが深まった学習方法を記入する。</p>				

国語の実践 I (R5.10月)

3年生国語科授業実践において、メタ認知向上を目標にした振り返りを実施した。

【国語科3年単元：俳句の可能性・俳句を味わう】

【国語科3年単元：俳句の可能性・俳句を味わう】

- I 本時の目標に対する達成度を自己評価する。
- II 本時の授業で自分ができるようになったことを記入する。
- III 学びが深まった学習方法を記入する。

(3) コミュニケーション部会

研究の仮説にある「他者と関わる協働的な学び」の質を高めるために、対話力と発信力の向上をねらい、毎週水曜日の帯の時間に「コミュニケーショントレーニングタイム」を設定して取り組んだ。

① 1・2学期の実践

1・2学期は、「話を聞く・質問する・伝える」を中心とした対話力向上を目的とする活動を行った。

右の【資料】にあるように「聞く⇒質問する⇒話す」の順にねらいを設定して活動を展開した。楽しく参加できるように、個人またはグループごとに得点を競わせるなど工夫した活動を取り入れた。

分野	内容
聞く	話を上手に聞く
聞く	キーワードを正しく聞き取る
聞く	メモをとって情報を正しく聞き取る
質問する	相手が考えているものを当てるために上手に質問する
質問する	1つのことを深掘りして質問する
話す	短文をつくって簡潔に話す
話す	ある言葉について短く簡潔に説明する…※
話す	ナンバリングを使って端的に話す

【資料】対話力向上トレーニングの主な内容

実践例

右上の表の※印「ある言葉について短く簡潔に説明する」活動の例

- ① 3人または4人班を作り、班の中で順番を決める。
- ② 1番目の人は、タブレット内のデータを見てお題を確認する。
- ③ スタートの合図で班のメンバーに別の言葉を使って説明する。（その言葉は使わない、ジェスチャーもなし）
- ④ ほかのメンバーは説明を聞いてその言葉を当てる。正解したら1ポイント。
- ⑤ 2番目以降の人も同様に説明し、ほかのメンバーが当てる。

【1・2学期の成果と課題】○…成果、▲…課題

○「わかっているのに人に教えることができなかったが、1つずつ情報を整理して話すと発表しやすい」「ナンバリングを活用して、みんなにわかりやすいプレゼンやスピーチの方法を考えたい」という振り返りから、話し方の型を学んで練習することで、考えを伝えるコツをつかむことができたことがわかる。（ナンバリングを使って端的に話す活動）

○「大事なワードとそうでないワードを聞き分けることができるようになった。授業でも何が大事でそうでないか聞き分けてノートに書くようにしたい」という振り返りから、メモをとりながら大切な情報を聞き取る力をつけ、授業に生かそうとしていることがわかる。（メモをとって情報を正しく聞き取る活動）

▲少ない人数でのコミュニケーションスキルを学ぶことはできたが、授業の形態に近い大人数での環境で意見を言う力が身につけていることは見とれなかった。より授業に生かせる力をつけていくことが課題である。



ある言葉について短く簡潔に説明する活動

② 3学期の実践

3学期は、より授業の中で生かせる力をつけることをねらい、「発信力向上」を目的とした活動と、より話しやすい「学級雰囲気づくり」を目的とした活動を行った。

発信力向上トレーニング

第1回の発信力向上トレーニングでは、「現時点での自分の発信力をメタ認知する」ことをめあてとして、全体の場でどのくらい意見が言えるか、または言えないのかを確認した。生徒の振り返りからは、意見が言える理由として「みんなが反応してくれるから」「みんな聞いてくれる」「慣れている」といったものが多かった。意見が言いにくい理由として「シーンとなるのがいやだ」「笑われたりするのいやだ」などが多く、「言える理由」「言えない理由」とともに、クラスの雰囲気や聞き手の反応に起因するものが多いことがわかった。



発信力向上トレーニング
お題「もし100万円ゲットしたらどうするか」

第2回以降は、生徒の振り返りをもとに、スモールステップで少しずつ慣らしていくことを目的として活動を展開した。4人程度の少人数グループでの意見の伝え合いから、10人程度の中人数グループでの意見の伝え合いに移行する活動や、クラスの人数を2分割した人数（15～20人程度）での意見の伝え合い活動を行った。また、挙手発言だけではなく、列指名発言や相互指名などを取り入れ、授業でも生かせるようさまざまな形態を経験できるようにした。その中で、聞き手の反応の仕方について指導することを意識し、発信力向上とともに聞き方の上達が図れるように心がけた。

学級雰囲気づくり活動

長期休業明けや月初めのタイミングで、人間関係づくりを目的としてさまざまなゲームを行った。「冬休みに一番遠くへ出かけた人を探すゲーム」や「嘘つき自己紹介ゲーム」、「班で協力して模写を完成させる活動」などを行った。

【3学期の成果と課題】○…成果、▲…課題

- 「自己紹介を聞いたり質問したりして、みんなと言葉のキャッチボールができた。みんなの新しい一面を知ることができた」という振り返りから、相手のことを知る、自分のことを知ってもらう経験ができ、意見を言いやすい温かな学級づくりへの一助となったことがわかる。(学級雰囲気づくり活動)
- 発信力向上トレーニングにおいて、意見が言いにくいのは「自分の意見に疑問をもたれるのがこわいから」「変なことを言ってシーンとなるのがいや」「みんなから注目されたくないから」といった振り返りが多く見られた。個人の問題よりも、集団の雰囲気に起因するものが多いことがわかる。そこから発信力を高めていくためのてだてを考えていくことにつながった。
- ▲友達の考えを聞きたい・自分の考えを言いたいと思えない題目だと、話す必然性を感じられず、発信意欲の低下につながることもある。「聞きたい・話したい」と思えるお題の精選が課題である。
- ▲自分の考えを全体の場で発信するのに抵抗感があることが、各活動の様子から見とれる。生徒の振り返りから、活発な意見交流をするには「伝える技術」「話の聞き方を含めた、言いやすい雰囲気」「慣れ」が必要であると考えられる。
- ▲「客観視・再構築」の力をつける活動を展開したかったが、時間の都合上難しい部分があった。

R6年度は、1学期に少人数での対話力向上トレーニング、2学期に中人数～大人数での発信力向上トレーニングを行い、3学期には火曜日・水曜日と2日続きで客観視・意見再構築トレーニングを実施し、研究の目指す子ども像に近づくような活動内容を再考していきたい。

(4) 生徒アンケートの実施

生徒の意識調査を目的として、7月と2月にアンケートを実施した。アンケート項目と結果は表1のとおりである。

表1 生徒アンケート結果

		Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16
R5.7月	とてもあてはまる	52.5	41.6	41.3	37.0	50.2	37.4	41.0	59.0	42.6	59.7	55.4	30.8	36.4	36.4	35.4	17.4
	少しあてはまる	42.0	45.9	44.9	49.5	39.7	45.9	46.6	38.4	45.2	36.1	38.0	44.9	50.2	48.5	50.2	6.0
	あまりあてはまらない	3.9	11.1	10.5	9.5	8.5	13.1	9.8	1.6	8.9	2.6	5.9	19.7	11.5	13.1	11.8	1.7
	全くあてはまらない	1.6	1.3	3.3	3.9	1.6	3.6	2.6	1.0	3.3	1.6	0.7	4.6	2.0	2.0	2.6	1.9
R6.2月	とてもあてはまる	46.7	42.1	36.6	41.8	46.0	34.3	41.4	60.9	46.0	63.3	55.8	36.7	36.2	40.8	33.5	32.5
	少しあてはまる	47.1	50.7	51.4	48.7	48.2	47.7	46.8	35.5	45.7	33.5	37.1	40.3	47.5	49.1	52.0	45.5
	あまりあてはまらない	5.1	6.5	11.2	8.0	4.7	15.2	10.4	3.3	7.6	3.2	6.8	16.5	13.4	7.9	12.7	19.9
	全くあてはまらない	1.1	0.7	0.7	1.5	1.1	2.9	1.4	0.4	0.7	0.0	0.4	6.5	2.9	2.2	1.8	2.2

Q1	中学校の授業を楽しく受けている (全般)
Q2	中学校の授業で、自分で考えたり、調べたりすることで、自分の考えをもつことができる (自己理解・自己決定)
Q3	発言や発表の場面では、自分の考えや意見をもっている (自己決定)
Q4	発言や発表をするとき、自分の考えや意見が相手に伝わるように意識している (かかわり)
Q5	中学校の授業で、仲間と考えや意見を交流することで、自分の考えを深めることができる (かかわり・自己理解・自己決定)
Q6	授業の振り返りができている (授業でできたこと、できなかったことがわかる。また、次への課題の意識がもっている) (自己理解)
Q7	自分が発言や意見を言うとき、仲間はしっかりと聴いていると感じる (かかわり)
Q8	仲間の発言や発表を理解しようと聴いている (かかわり)
Q9	仲間の発言や発表を聴いて、自分の考えに生かすことができる (自己決定)
Q10	授業で「できた」「わかった」と思うことがある (自己理解)
Q11	学習において、自分の得意なところ、不得意なところがどこかわかっている (自己理解)
Q12	家庭学習において、自分に必要な学習を考えて取り組んでいる (自己決定)
Q13	中学校の授業で学習したことは、社会に出たときに役に立つと思う (ひろげる)
Q14	ある教科の授業で学習したことが、他の教科の授業で役に立つと感じることがある
Q15	中学校の授業で学習したことは、普段の生活で活用できたり、生かしたりできると思う
Q16	中学校の学びをとおして、自律人として、社会の中で、よりよく生きていく自信がついてきた

また、ほぼ同様のアンケート項目を、教師アンケートとして実施した。(表2)

表2 教師アンケート結果

R6.2月	とてもあてはまる	28.6	14.3	14.3	14.3	75.0	7.1	21.4	28.6	14.3	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1
	少しあてはまる	64.3	78.6	78.6	64.3	25.0	71.4	57.1	57.1	71.4	71.4	85.7	50.0	78.6	78.6	78.6	85.7
	あまりあてはまらない	7.1	7.1	7.1	21.4	0.0	21.4	21.4	14.3	14.3	21.4	0.0	35.7	21.4	21.4	14.3	7.1
	全くあてはまらない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
Q1	生徒は、中学校の授業を楽しく受けている (全般)																
Q2	生徒は、中学校の授業で、自分で考えたり、調べたりすることで、自分の考えをもつことができる (自己理解・自己決定)																
Q3	生徒は、発言や発表の場面では、自分の考えや意見をもっている (自己決定)																
Q4	生徒は、発言や発表をするとき、自分の考えや意見が相手に伝わるように意識している (かかわり)																
Q5	生徒は、中学校の授業で、仲間と考えや意見を交流することで、自分の考えを深めることができる (かかわり・自己理解・自己決定)																
Q6	生徒は、授業の振り返りができている (授業でできたこと、できなかったことがわかる。また、次への課題の意識がもっている) (自己理解)																
Q7	生徒は、自分が発言や意見を言うとき、仲間はしっかりと聴いていると感じる (かかわり)																
Q8	生徒は、仲間の発言や発表を理解しようと聴いている (かかわり)																
Q9	生徒は、仲間の発言や発表を聴いて、自分の考えに生かすことができる (自己決定)																
Q10	生徒は、授業で「できた」「わかった」と思っている (自己理解)																
Q11	生徒は、学習において、自分の得意なところ、不得意なところがどこかわかっている (自己理解)																
Q12	生徒は、家庭学習において、自分に必要な学習を考えて取り組んでいる (自己決定)																
Q13	生徒は、中学校の授業で学習したことは、社会に出たときに役に立つと思うと考えている (ひろげる)																
Q14	生徒は、ある教科の授業で学習したことが、他の教科の授業で役に立つと感じている (ひろげる)																
Q15	生徒は、中学校の授業で学習したことは、普段の生活で活用できたり、生かしたりできると思っている (ひろげる)																
Q16	生徒は、中学校の学びをとおして、自律人として、社会の中で、よりよく生きていく自信がついてきている																

【アンケート分析による成果と課題】○…成果、▲…課題

- どの項目においても、「とてもあてはまる・少しあてはまる」という、学習や自己理解、自己決定、かかわり合いに対して前向きな捉えの生徒が多いことがわかる。
- 表1「Q3発言や発表の場面では、自分の考えや意見をもっている」「Q4発言や発表をするとき、自分の考えや意見が相手に伝わるように意識している」の項目で、「全くあてはまらない」を選択した生徒が減少している。(Q3:7月3.3%→2月0.7%、Q4:3.9%→1.5%) かかわり合いの場を設定した授業や、コミュニケーションスキルタイムの実施によって、仲間とのかかわり合いが増え、相手を意識した対話力が向上したと考えられる。
- Q4についての記述では「相手が理解できていなさそうであれば、情報を付け足すなどしている」とあり、他者意識をもち、伝えようとする姿勢が見られた。かかわり合いを大切にしていることがわかる。
- 表1「Q16中学校の学びをとおして、自律人として、社会の中で、よりよく生きていく自信がついてきた」の項目において、生徒アンケート「とてもあてはまる」が増加している。(7月17.4%→2月32.5%) これは、折に触れて校長や担任が、「客観視すること」「自己決定すること」「自律人として社会で生き抜くこと」を生徒に話していることで、生徒自身が何を身に付け、どう生かしていくべきかという自覚が高まっていると考える。
- ▲ 「Q12家庭学習において、自分に必要な学習を考えて取り組んでいる」という項目において、生徒アンケートでは「あまりあてはまらない・全くあてはまらない」を合わせて13%であるが、教師アンケートでは42.8%と約半数が家庭学習について必要な自己決定ができていると捉えていない。この差は、家庭という学校現場では把握できない部分であること、また、学習ログなどで、自分に必要な学びを把握できるようになってきたが、それが有効であったかの検証が不十分であったことによるものと考えられる。対話を通して学びの自己決定の様子を把握したり、検証方法をどのようにしていくかを考えていきたい。また、家庭での学習状況をどれだけ把握すべきかは、一考の余地があり、検討する必要がある。
- ▲ どの項目においても、7～9割が「とてもあてはまる・少しあてはまる」と前向きな回答である。生徒のこの捉えを、生徒自身が自分自身を客観視できているかどうかは、再考する必要がある。アンケート項目についても検討し、改善していく。